

津 島 市 市 政 報 告 会 （ 文 化 会 館 開 催 ） 会 議 録

日程 令和6年7月8日（月）

午後2時～2時58分

会場 文化会館小ホール

1 開催対象

津島市老人クラブ連合会の皆さま（参加者：60人）

2 内容

市長説明（14：00～14：46）

質疑応答（14：46～14：58）

3 市長説明

テーマ「津島市の取り組みについて『まちづくり、子育て支援、そして定住へ』
つしま未来創造予算を中心に」

4 質疑応答（要旨）及び回答

（1）消滅可能性自治体について

意見

二つ質問がある。

一つは、人口問題について。人口戦略会議が県内7つの市町村を消滅可能性自治体に示し、津島市も含まれていた。これを受け愛知県内で消滅可能性自治体に示された市町村について5月1日に会議を実施したとのことだった。愛西市のほか県内6市町村が参加していたが、津島市はオブザーバー参加であった。これはなぜか。

もう一つは、津島市に関するデータで2023年から2024年にかけて、100人以上の従業員を持つ企業が31から23に減少している。また、幼稚園の数が5から2へ減少しているがこれはなぜか。

市長

手元に詳細なデータがないところなのでお答えできる範囲で回答する。

まず、県内の人口減少に関する会議は愛知県が参加自治体を選んだものであり、こちらは人口減少の実績値によるものである。県下20地区11の市町村をコアメンバーとした。これには津島市は入っていない。これは2005年から2020年までの間に人口が10%以上減少した地区と市町村であり、津島市は含まれていない。人口戦略会議が発表した消滅可能性自治体は推定値によるものであり、そこで会議の参加自治体の違いが生まれた。ただし津島市においても人口減少は課題であるため勉強のためにオブザーバーで参加をした。

加えて説明すると、消滅可能性自治体のデータを調べると、2005年～2010年、2010

年～2015年、2015年～2020年の三期の平均的な人口異動からの推定値であり、今から20年前のデータを入れ込んだ推定である。それら三期の各状況のトレンドを踏まえると、津島市は2005年～2015年の人口異動が大きく近年では落ち着いている。そうした過去と現在の差が踏まえられていない推定値であるため、乱暴な推定値により消滅可能性自治体と発表されたのは市民のプライドが許さないだろう。愛知県はそれに対し実績値で会議の招集を行ったということである。こうしてデータをもって説明すれば納得いただけるが消滅可能性自治体という言葉の影響は大きく残念である。

なお、幼稚園の数が減ったのは、幼稚園が認定こども園へ移行したことによるものである。トータルでは減少していないと理解している。

(2) 津島市の名物について

意見

京都の名物「八つ橋」と言えばかつては堅い焼き菓子であったが、今は生八つ橋を思い浮かべる方が多い。そう考えると、あかだくつわも堅いものだけでなく柔らかいものがあった方が良いのではないか。そうした工夫が津島名物の広がりには必要だと思うのでそのようなアイデアを出していただくといいところがあればと思う。

市長

新しい名物については、作り手の方が必要だがそうした取り組みは各所で進みつつある。おっしゃったような事は今のところ市の方からは申し上げられないが、今後津島神社の門前に出来るおみやげ横丁に売るのがないというのはいけない。また、売る場所があれば商品開発が可能となる。商工会議所などのアイデアで新しい名物ができるのは良いことだと思う。